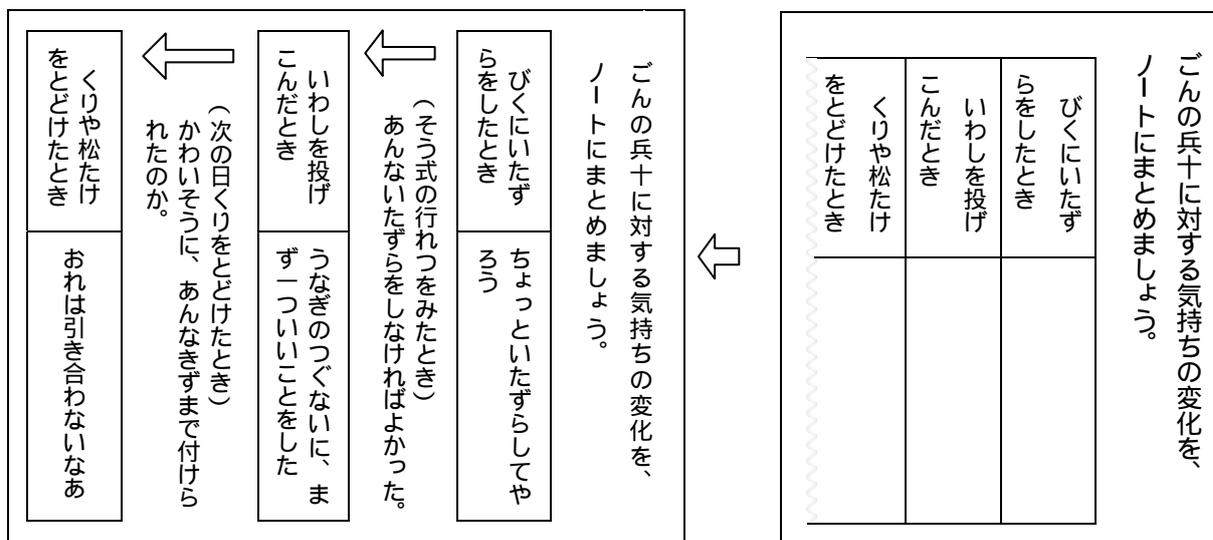


6 学習の手引きの「問い」や「例示」を吟味しましょう

「問い」を吟味してワークシートを作る

ワークシートや教科書の「学習の手引き」の「問い」や記述欄については、学習目標の達成を図るうえで適量かどうか、内容的にどうかなどを吟味することが大切です。次に示すのは、教科書の「学習の手引き」の「問い」に工夫を加えることにより、一層の学習効果を図ったワークシートの例です。

「ごんぎつね」（東京書籍4年下）の学習の手引きの補足例



ワークシート化した例

教科書の「学習の手引き」

右の例では、「ごんの兵十に対する気持ち」が、なぜ から へ、から へと変わったのか、その理由までは分かりません。そこで、「気持ちの変化」が分かるように作りかえたものが左の例です。

「例示」をもとにみんなで考える

一方、光村図書の「ごんぎつね」では、「一年間積み重ねてきた学習を生かして、自分の力で『ごんぎつね』に取り組みましょう。」という学習課題のもとに、児童主体で取り組むように、「学習の進め方」と、それまでに学習した内容が例示されています。

その例示を生かすには、教科書の上巻、下巻のページをめくり、「どの教材で」「どんな学習をしたのかを、みんなで振り返る時間を設けると効果的です。その際、一年間の自分のノートも振り返らせ、考えたことを楽しく発表し合う場面を設けると一層効果的でしょう。

なお、下に示すように、教科書の例示以外にも、「ごんぎつね」の学習に役立つような学習事項はたくさんありますので、「例示」を工夫する参考として紹介します。

「ごんぎつね」(光村図書4年下)の学習の手引きの補足例

「白いぼうし」(教科書上 P52～63)

- ・ 行動や話し方から人物の人がらを考える。
- ・ においや色などを表したり想像させたりする言葉から、作品の印象を語り合う。
- ・ こそあど言葉が指し示す意味を考え、場面の様子を想像する。

(例) 1や2の場面で、人物の様子や情景が効果的に表現されている箇所を探して印象を語り合おう。例えば、「いつもは、赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、今日はなんだかしておれていました。」などはどうか。

「一つの花」(教科書下 P4～15)

- ・ どんな時代の物語か言葉や表現をもとに考える。
- ・ 書かれていることを手がかりにして、書かれていない人物の気持ちを想像する。
- ・ 場面ごとのつながりについて、登場人物の行動に注意して読む。
- ・ 題名の意味を考える。

(例) 5の場面で、ごんが「お念仏がすむまで、いどのそばにしゃがんで」いたり、「二人の話の聞こえを聞いて」「兵十のかげぼうしをふみふみ行」ったりしたのはなぜか、想像して話し合おう。

(例) 「おれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃない、おれは引き合わないなあ。」と言ったのに、「その明るく日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけ」たのはなぜか、想像して書こう。

「アップとルーズで伝える」(教科書下 P18～23)

- ・ どの写真がどの段落のことを書いているか考える。
- ・ アップとルーズがそれぞれ伝えられること、伝えられないことをまとめる。

(例) 「ごんぎつね」では、アップで伝えると効果的な場面はどこかな。ルーズで伝えると効果的な場面はどこかな。それぞれ絵にあらわして解説文を書こう。

「生活を見つめて」(教科書下 P32～39)

- ・ 疑問に思うことをアンケートで友達に聞く。
- ・ アンケートの取り方を工夫する。
- ・ 分かったことをレポートに書き、感想や意見を伝え合う。

(例) ごんの行動について、「疑問に思うこと」をアンケートで友人に聞いてみよう。

- ・ うなぎを草の葉の上ののせておいたのはどうしてかな。
- ・ ごんは、くりをどうやって拾ったのかな。いがかがいたいんじゃないかな。

ワンステップアップ

教科書やノートを振り返りながら、右の各欄のように、教師が積極的に「問い」を例示することが必要です。とりわけ、人物の行動や情景の描写などに着目させ、この作品の優れた表現を味わう学習活動を児童に示すことが望まれます。